

千代の富士の石碑



自治会の催しレクレーションの一貫で妙心寺の塔頭の一つ「大法院」の「紅葉狩り」に出席した際に「こんなところにこんなものが」と「驚き桃の樹山椒の樹」になりました。

この「大法院」は寛文2年（1662）真田幸村の兄で初代松代藩主・真田信之の菩提寺として創建されました。露地庭園が美しく紅葉の季節には入場制限が出来るほど人気があり、あまり人に教えたくない落ち着きのある、まとまりのある隠れ家的な場所だと思います。方丈の襖絵「叭叭鳥図（ははちょうず）」江戸時代中期の絵師・土方稻領の作。普段は非公開で春の桜・秋の紅葉に時期だけ特別公開されます。



さて、この露地庭園をまわりこんだところに墓地があり、この中に複数の真田家の墓があり、さらに佐久間象山の墓もあります。この墓地を出て帰り道に当たるところを歩いていますと、どなたでもすぐ気づく千代の富士の石碑がどーんと立っています。石碑の前は広場となる空間があります。なぜこの場所に千代の富士の石碑があるのか関係者に尋ねたところ・・・この大法院の住職が千代の富士の現役時代からずっと親交があり、また妙心寺で開催されている紅葉を楽しむ「もみじ会」に参加していた縁で、応援していた有志の方々と一緒になって石碑建立に至ったということです。この石碑は縦 1,9m 横 幅 1,3m と大きく黒御影石に土俵入りする姿や直筆の「心技体」の文字などが彫られています。





{千代の富士貢}



第58代横綱、通算1045勝、幕内優勝31回、53連勝 気迫あふれる土俵「小さな大横綱」と称され国民栄誉賞に輝いた

